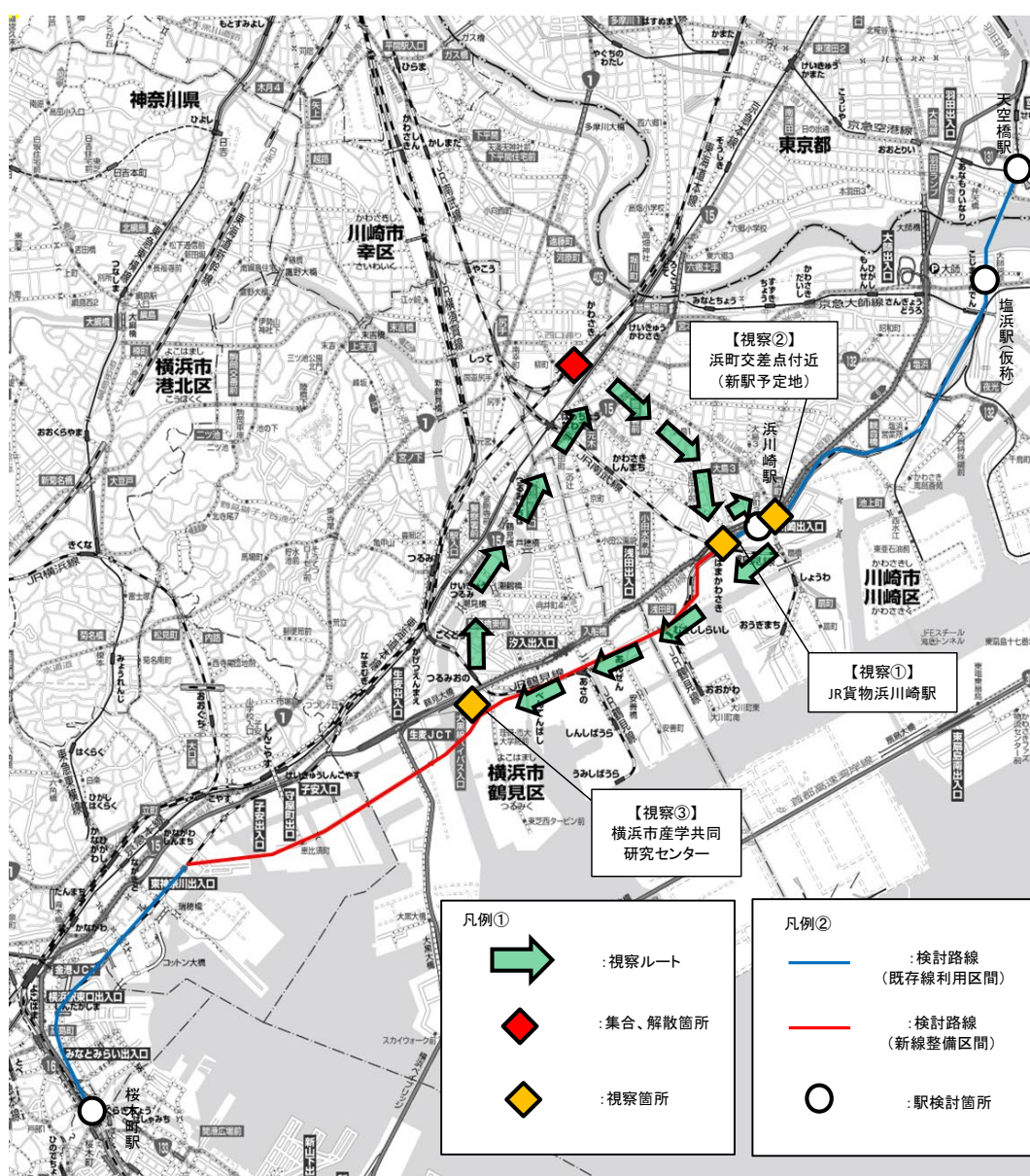


平成 30 年度貨客併用化における現地視察について

平成 30 年度は貨客併用化の検討ルート沿線と、貨客併用化の先行事例である、おおさか東線について、それぞれ現地視察を行った。

現地視察の概要（検討ルート沿線）

検討ルート沿線のまちづくりや貨物鉄道の状況を把握し、今後の貨客併用化の取組みの参考とするため、JR 貨物浜川崎駅、浜町交差点付近（新駅予定地）、横浜市産学共同研究センターについて、平成 31 年 1 月 24 日に現地視察を行った。



【視察①】 J R 貨物浜川崎駅



J R 貨物浜川崎駅は、川崎市の臨海部、京浜工業地帯の中心に位置し、内陸部への輸送基地として石油輸送を主体に各方面への組成仕分作業、扇町駅、安善駅に発着する列車の中継作業等を行っており、関東支社管内ではコンテナを扱わない車扱駅である。

平成 10 年頃までは、全国の貨物取扱量の上位に位置していたが、徐々に取扱量も減少し、最近では地球温暖化、重油からガスへのエネルギー転換等により、主体である石油の発送も減少傾向にある。

【視察②】 浜町交差点付近（新駅検討箇所）



新浜川崎駅（仮称）は、信号設備の改良を考慮し、J R 貨物浜川崎駅上り到着線分岐位置から 100m の離れを確保し、駅舎を地上部、ホームを高架部として過年度に検討を行っている。

【視察③】横浜市産学共同研究センター

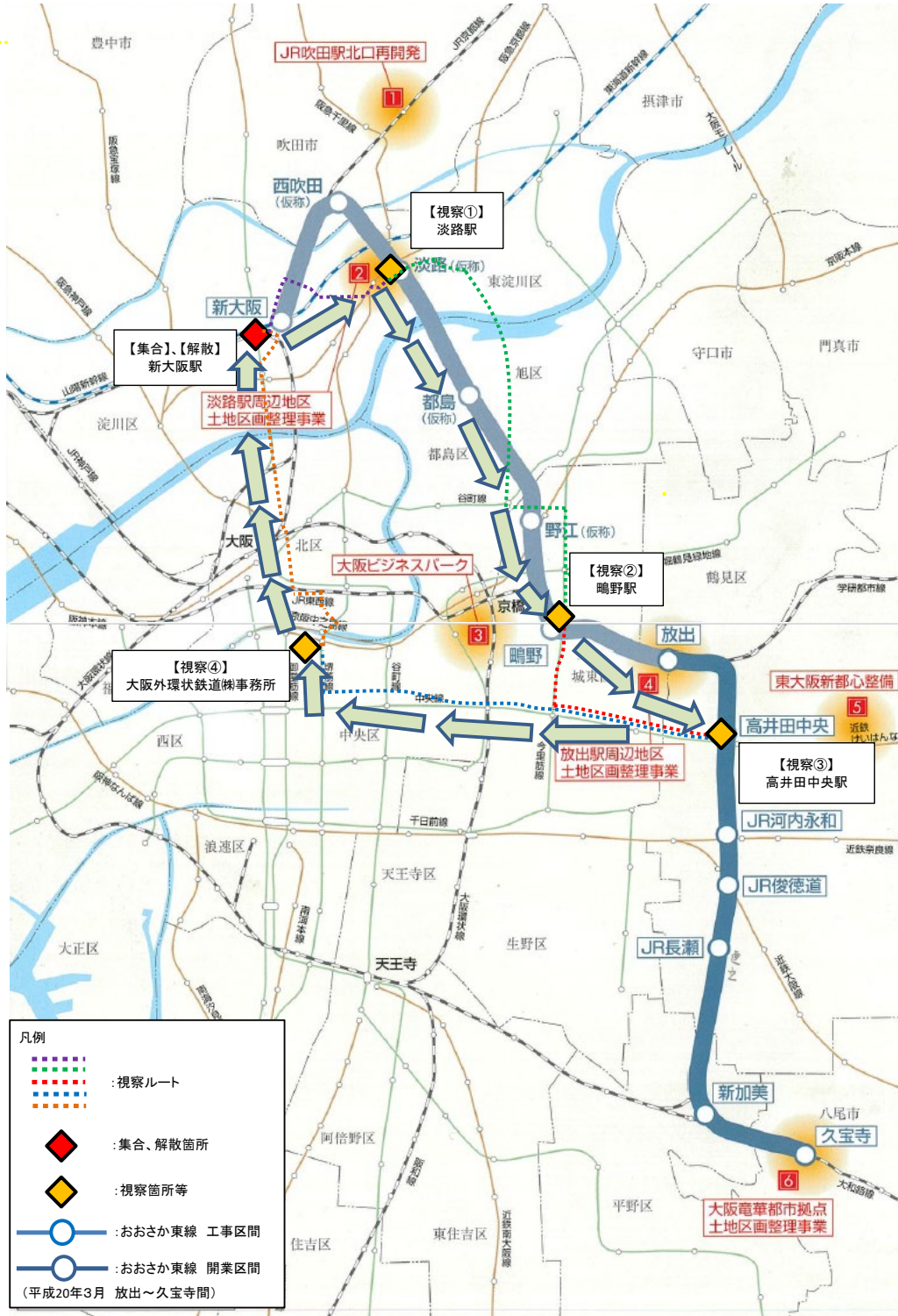


横浜市産学共同研究センターは、公益財団法人横浜企業支援財団が運営を行っている。

研究者の多様な開発ニーズに応えるため、大規模な実験空間を持つ実験棟と、小・中規模の研究空間をはじめ、会議室や交流サロンを持つ研究棟とで構成されており、産業界の優れた技術力と大学等の研究開発力を結集し、既存産業の高度化と新たな産業の創出を目指している。

現地視察の概要（おおさか東線）

おおさか東線は、城東貨物線を複線化して旅客線と併用を行う先行事例であり、平成 31 年 3 月に新大阪駅～久宝寺駅の区間が全線開業することから、課題解決のための検討の材料とすることを目的として、淡路駅、鳴野駅、高井田中央駅、大阪外環状鉄道株式会社事務所について、平成 31 年 2 月 7 日に現地視察を行った。



【視察①】淡路駅



淡路駅は、北工区の新駅であり、開業前の旅客列車の試運転状況や、貨物列車が同一線路を併用している状況を視察した。

【視察②】鳴野駅



鳴野駅は北工区の改良駅であり、既存の学研都市線に隣接して高架ホームを増設し、増設部に学研都市線を切り替えて、既存の線路におおさか東線と貨物線を通す改良工事について視察した。

【視察③】高井田中央駅



高井田中央駅は、平成20年3月に先行開業した、南区間の既存駅であり、上下線において貨物列車と旅客列車が同時に運行している状況を視察した。

【視察④】大阪外環状鉄道株式会社事務所



おおさか東線の建設主体である大阪外環状鉄道株式会社において、事業概要や事業手法などの説明を受けた後、貨客線の併用化に関する意見交換を行った。